

令和5年度 学校評価報告

草加市立両新田中学校
(令和6年1月9日作成)

1 学校教育目標	
<p>自ら学び 心豊かに たくましく</p> <p>自ら学び (知) ～自分の考えをもつ 正しく判断し行動する 目標を持ち努力する 心豊かに (徳) ～互いのよさや努力を認め合う 態度や行動に示し主体的な実践をする たくましく (体) ～困難を克服する力や健やかな体を目指す 規律正しい生活習慣を確立する</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>(1) 学習指導の充実 (2) 幼保小中を一貫した教育の推進 (3) 安全・安心で開かれた学校づくり (4) 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 (5) 心豊かな心の育成 (6) たくましく生きる生徒の育成</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が学校教育目標を理解し、学校運営参画意識をもって、校務分掌にあたることができた。 体育祭や合唱祭、授業参観を通して、学校の教育活動の様子を保護者に伝えることができた。 学校と保護者が連携をしながら、一人ひとりの生徒を大切にした指導を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎基本の定着を図るために、各教科領域等で「主体的で対話的な深い学び」を意識した授業を実践する。

4 評価表 ※評価規準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○全教職員が校長の学校経営方針を理解し、それぞれの校務分掌に対して学校運営参画意識をもって教育活動を進めることができた。また、各部会（運営委員会、生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会等）を通して、情報を共有しながら組織的に学校の教育活動を進めることができた。</p> <p>●校務分掌や学校行事の精選を行い、教職員の職務の量の適正化を進めていく。また、経験の浅い教職員も本校は多く、様々な校務分掌を担わせ、計画的に力量の向上を図る。さらに、各分掌の成果や課題を明確にし、次年度の教育課程に反映させる。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<p>○不祥事根絶のための研修を定期的に行い、不祥事や事故を防ぐことができた。また、幼保小中一貫教育の研究発表に向けた校内研修を行い、全教職員が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点をもった授業を実践し、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>●特別支援教育（通常学級にいる支援を必要とする生徒への対応等）や不登校生徒への対応の仕方等、研修を充実させ、教職員が対応の仕方を学ぶ必要がある。</p>

③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○登校安全指導では、登下校の際に職員が通学路の見回りを行ったり、また、交通安全教室の授業を通して、自転車の乗り方のマナーやルールに対する意識を醸成させることができた。</p> <p>○危機管理マニュアルの見直しを行い、非常事態に応じるための対応策を全教職員に周知する必要がある。また、毎学期実施している避難訓練を通して、生徒は避難経路の確認、非常事態の際の安全な行動の仕方を確認することができた。</p>
④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○定期的な校内の安全点検、管理職による校内巡視による迅速な修繕箇所点検により、校内の設備に大きな不備はなかった。</p> <p>○管理職が日頃から全教職員に対して個人情報の取り扱いについて指導を行い、また、個人情報持ち出し簿を活用し、漏洩防止を徹底することができた。</p> <p>●生徒のタブレットの使用（使う時間や使用方法）について、校内で教職員が共通理解を図り、指導を徹底させる必要がある。</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<p>○配信メールを有効に活用し、保護者に様々な情報を確実に伝えることができた。また、各種便り（学校便りや学年便り等）や学校HPで学校の教育方針や教育活動の様子を発信することができた。</p> <p>○保護者会や授業参観、学校行事（体育祭や合唱祭等）を通して、教育活動を保護者に伝えることができた。</p> <p>●学校運営協議会委員の方やPTA、保護者の方、そして地域の方からの様々な声を学校の教育活動に生かしていく。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○今年度は、両新田中学校区幼保小中一貫の研究発表があり、今までの研究の成果と課題を発表することができた。今回の研究を通して、校区の全教職員が合同研修会や研究授業の相互参観等を通して、教職員の授業力の向上を図ることができただけでなく、小中の教職員の交流や相互理解を図ることができた。令和6年度以降も校区で連携をし、研究を継続していく。</p> <p>●今年度の研究発表を通して明らかになった成果や課題を、令和6年度の年間指導計画や全体計画を作成する際に反映させ、研究組織を再編する。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が学校教育目標を理解し、教育活動を行うことができ、自分の校務分掌に対して、学校運営参画意識をもってあたり、学校全体で組織的に教育活動を進めることができた。 ○学校行事を制約なく実施し、生徒たちが主体となって運営することで、達成感を得ることができた。また、教育活動を保護者に積極的に公開することができた。 ●令和5年度の教育活動の成果と課題を明確にし、令和6年度の教育課程に反映させていく。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別最適な学び」、「協動的な学び」について、指導者を招き、研修を行うことで、全教職員が授業の実践に生かし、授業力の向上を図ることができた。 ○ICT機器を有効に活用する場面や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践することができた。 ○学期ごとに教科会を開き、進捗状況や指導法、そして学力状況調査の結果を共有することができた。 ●3観点による評価の仕方について、再度全教職員が評価の方法を研修等を通して、理解を深める必要がある。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に学年道徳やローテーション道徳、及び道徳の評価について研修を実施し、学校全体で道徳教育の充実を図ることができた。 ○道徳の授業の抜本的改善事業において、外部指導者の方からの指導を頂き、指導方法の工夫や評価について学ぶことができた。 ●指導と評価のあり方については、継続して研究する必要がある。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会役員の生徒が中心となり、両新田中学校の生徒会としての活動を充実させることができた。 ○生徒が主体となる様々な活動を行い、リーダーの育成、自己肯定感や自己有用感の向上、自治意識の醸成を図ることができた。令和6年度も様々な学校行事や諸活動を通してこれらの力を育てていく。 ●各学級において、様々な問題や課題が生じたときに、自分ごととして捉えて自分たちで解決できる力を育成するために学校で統一したマニュアル（学級会の進め方や、合意形成の仕方等）を作成する。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○助産師の方を招いて講話をいただき、生徒たちは自分の生命について深く考えることができた。また、高等学校の先生を招き、高等学校の紹介をしていただき、生徒たちは自分の将来について考えることができた。 ●生徒自らが課題を設定し、解決できるよう、より探究的な活動を意識した指導を実践するために、年間指導計画や全体計画を見直す。

⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○部会（生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会）を通して様々な事案の状況を共有したり、指導方針を検討し、組織的に対応することができた。</p> <p>●不登校の生徒対応について、SCやSSC、そして外部の機関とより連携を図りながら、一人ひとりの生徒の支援を充実させ、組織的に対応を行う。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	A	<p>○進路指導主事が中心となり、3学年の進路指導を組織的にを行い、また、充実させることができた。</p> <p>○進路だけでなく定期的な発行され、3学年だけではなく、全学年の学級活動でも活用することができた。</p> <p>●3年間を見通した進路指導を進めていくために、学校全体でキャリア教育の指導を見直し、充実させる。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<p>○生徒、保護者の一人ひとりの願いや思いを大切に支援を行うことができた。</p> <p>●校内で研修を行い、通常学級にいる特別な支援を要する生徒について理解をより深める必要がある。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○朝読書の時間を毎週2回学校全体で設定し、生徒の読書習慣を定着させることができた。また、昼休みに毎日図書室を開放し、図書室で読書をしたり、本を借りたりする生徒が増え、読書活動を充実させることができた。</p> <p>○司書教諭、学校司書、図書委員による図書室の整備や掲示物の作成などで、図書室の利用環境を整えることができた。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○年度当初に情報担当がICT機器の整備を行ったので、機器の使用や管理をスムーズに行うことができた。また、教師、生徒ともに授業で積極的に活用している場面が増えた。</p> <p>●生徒がタブレットを使用する際の情報モラルについて、指導を徹底する必要がある。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○生徒は人権作文や人権標語などの作成に意欲的に取り組み、人権感覚の育成を図ることができた。</p> <p>○道徳の授業や総合の時間で、人権について触れる機会を設けることができた。</p> <p>●人権教育について教職員への研修を充実させ、授業を始めとする様々な場面で、人権に関する内容に触れ、生徒の人権教育に対する意識を育成する。また、特にSNSについて、責任ある発信や他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚を育成していく。</p>

草加市立両新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な教科会の実施 定期テスト前の学習会 両新田中学校「学習の手引き」の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体で年度初めに「両新田中学校学習の手引き」を配布し、全教科の学習法や家庭学習の取り組み方の指導を行い、生徒は中学校の学習の取り組み方について学ぶことができた。 ○学期の始めに教科会を行い、諸調査の結果を分析し、指導法を共有した。 ○定期テスト前に学習会を行い、多くの生徒が参加をした。 ●基礎学力の定着が不十分な生徒が多く、特に家庭学習の定着がない不十分な生徒が多い。そこで、学校全体で基礎学力コンテスト等、定期テスト以外で学習する機会を年間行事予定の中で設定し、生徒が学習するきっかけをつくる。また、よい成果をあげることができた生徒には、表彰を行うことで、学習に対する意欲を高める。
	ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> 校内環境の整備 小中あいさつ運動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎学期、生徒はPTAと協力をして校内環境の整備を行い、多くの生徒が参加をした。 ○1、2学期に運動部の生徒が小学校のあいさつ運動に参加をした。 ●委員会や部活動単位でボランティアに参加する機会を多く設定し、ボランティア活動に対する意識を高める。
	両中スマホルール	<ul style="list-style-type: none"> 両新田中学校区スマホルールの設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○両新田中学校区で統一したスマホの使い方のルールを設定し、使い方について一貫して指導を行うことができた。特に、長期休業に入る前には、全校で一斉に指導を行ったり、生徒会が主導となって指導を行ったりした。 ●引き続き、生徒の実態にあったルールになるように見直しを行い、年度初めや学期末の保護者会、また、新入生保護者説明会でも内容を発信していく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・保護者の学校評価アンケート結果から、学校教育目標に関する「自ら学び 心豊かに たくましく」についての3項目については、(A+B)が約73%の達成度であり、多くの保護者から評価を得ることができた。また、教職員も約94%の達成度となり、教職員も学校運営参画意識をもって、校務分掌にあたり、学校全体で学校教育目標を共通理解し、教育活動を進めることができた。
- ・今年度は感染症の制約が解除され、体育祭や合唱祭、授業参観や保護者会等を通して、学校の教育活動の様子を保護者に伝えることができた。保護者アンケート「保護者との交流の機会を定期的に設けている」は78.1%（昨年度77.3%）であった。
- ・保護者アンケート「子どもの悩みや問題について適切に対応してくれている」、「子どものことについて家庭と連携をとっている」の項目ではどちらも約80%の達成度であり、一人ひとりの生徒に寄り添いながら、指導・支援を家庭と連携しながら行うことができた。しかし、「子どもの様子に変化があればすぐ先生に伝えている」の項目では、68.3%（昨年度85.3%）の達成度であったため、学校側からより積極的に保護者に連絡し、さらに保護者との連携を図っていく。
- ・保護者アンケート「学校は子どもに学力をつけている」の達成度は73.7%（昨年度69.6%）という結果であった。しかし、「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」の項目では72.3%（昨年度90.6%）と、昨年度より大きく低下してしまった。よって、教員の授業力の向上を一層図る必要がある。

6 次年度の改善策

(1) 基礎学力の定着と学力向上

- ・校内授業参観週間を設定し、教職員が自由に他の教職員の授業を参観し、授業力の向上を図る。
- ・基礎学力の定着をより一層図るために、家庭学習定着の指導と、定期テスト以外で学習する機会を確保し、基礎学力コンテストを学校全体で設定する。
- ・諸調査（全国・県・市）の結果を分析し、一人ひとりの生徒の達成度の把握と教職員の指導法の改善を図る。
- ・次年度に向けて、全教科、領域の年間計画・全体計画等の見直し、作成を行う。
- ・「主体的対話的な深い学び」の視点をもった授業やICT機器を有効活用した授業を実践する。
- ・草加っ子の学びを支える授業の5か条の視点（特に第3条と第4条）、そして「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を取り入れた授業実践を行う。

(2) 生徒理解に努め、組織的な生徒指導と教育相談

- ・生徒、保護者と寄り添い、学校と連携した指導、支援を行う。
- ・学校全体で組織的な対応をするために、それぞれの部会（生徒指導、教育相談、いじめ防止対策）を有効に活用し、いじめ、不登校生徒の解消に向けた支援を積極的に進める。
- ・組織的に不登校生徒の対応を図るために、SCやSSW、諸機関と連携した支援を行う。
- ・生徒が主体となって、自己肯定感や自己有用感を味わうことができる教育活動を実践する。
- ・タブレット使用方法について、共通理解を図る。

(3) 両新田中学校区幼保小中一貫教育の充実

- ・今年度までの研究の成果と課題を振り返り、次年度以降の研究をさらに推進する。
- ・両中校区の教職員が共通した指導観「めざす子ども像」をより一層共有し、校区の課題である「基礎学力の定着」と「自己肯定感の育成」を図る。
- ・教職員の交流と児童生徒の交流をより充実させる。